

# 秋山伯耆守虎繁 女城主おつやの方

## 四百五十年遠忌法要

日時 令和六年十二月二十九日

午後一時から

会場 妙法寺（恵那市岩村町九一一番地の二）

一五七二年（元龜三年）から一五七五年（天正三年）の間、甲斐の武田と尾張の織田との争いにより、半手の地にあった「岩村城」はこの争いに当然の如く巻き込まれていった。一五七二年（元龜三年）秋山虎繁は知略を尽くし、女城主「おつやの方」と婚姻することにより領民領地の安堵を約束し岩村城に入った。その三年後、長篠の戦で武田勝頼が敗走し、今度は岩村城を織田信忠が攻めに入った。数か月及びぶ籠城戦の末、領民領地の安堵を条件に秋山虎繁とおつやの方は岩村城を開城した。しかし、信長の怒りは収まっていなかった。秋山夫妻以下五名を捕らえると、一五七五年（天正三年）十一月二十八日（新暦十二月三十日）長良川河畔で処刑してしまった。この時処刑された秋山伯耆守虎繁と女城主「おつやの方」夫妻を古くから供養してきた「まくら冢」のある妙法寺で法要を行う意義は大きい。

十三時より

法要

十三時三十分より

紙芝居

女城主

十四時より

懇親会

可憐夜HITOMI

十五時

閉式

限定御朱印・売店等ご利用ございます



# 秋山伯耆守虎繁・おつやの方夫妻と妙法寺

## 日蓮宗 桃萼山 妙法寺

岩村藩2代目藩主 丹羽氏定公の息女 多阿姫は嫁ぎ先にて難産で苦しんでいた折、亮朝院日輝上人の修法を受け無事出産しました。

氏定公夫妻は篤く信心を興し、法華経守護の七面大明神を勧請し、1653年(承応2年)伊豆国玉沢妙法華寺17世円通院日亮上人を招き、妙法寺を創建した。当初の山号は経王山と称したが、氏定公の法号「興昌院殿桃雲宗萼大居士」から桃萼山と改称した。【妙法寺パンフレットより】



まくら冢

妙法寺境内左側に年代不詳の円形自然石供養碑がある。表面に「まくら冢」(冢は塚の異字)と刻んである。その傍らに「秋山候一族源平冢・文久二戌年奉祀」と刻んだ石柱もある。

1575年(天正3年)織田信長により処刑された悲劇の城主秋山虎繁夫婦らの怨霊を鎮めるため、大将陣を望む境内に、大将陣の方に向けて、建立された供養塚と伝えられる。後年、頭の病気に効ありと世人の信仰を得ている。

【妙法寺案内看板より】

岩村藩3代目藩主 丹羽氏純公は、藩主の弟や娘が若死にするなどの不幸が続くことがあった。そこで1575年(天正3年)に織田信長によって逆磔にされた秋山虎繁夫妻ら5人の霊を弔うために、大将陣の麓の妙法寺境内東側に五仏寺を創建した。丹羽氏転封と共に廃寺となった。

【歴史掘りおこし読本 第1巻 いわむら(抜粋)】



恵照山 五仏寺跡



1575年(天正3年)織田信忠は岩村城を攻めた際、本陣のあった丘を大将陣という。約半年に及ぶ激甚を極めたこの戦で、織田軍は岩村城の裏山の水晶山より攻撃し、遂に岩村城を落城させた。信忠は大将秋山伯耆守を始め、修理夫人、及び大島、座光寺、下条等5人を捕らえて、大将陣に於いて逆磔の刑に処した。修理夫人もその最後の時、信長の惨忍を絶叫して、その終りの必ず良からぬことを予言しつつ死んだという。この5人の遺骸を埋めたのが大将塚である。【岩村町史(抜粋)】

大将陣と大将塚

最近の研究により、秋山虎繁夫妻は長良川河畔にて磔にされたと判明したが、昭和36年編纂の「岩村町史」に於いても秋山虎繁夫妻は大将陣にて逆磔に処したとある。近年まで岩村町では大将陣逆磔説が信じられていた。丹羽氏純公が秋山夫妻の祟りを恐れ五仏寺を創建したなど、大将陣のすぐ麓にある妙法寺境内は秋山夫妻の霊を慰め、供養することに最も適した場所であったと考えられる。大将陣に向くように妙法寺境内に建立された供養塚「まくら冢」で今後も供養がされていくであろう。